

編さん室日記

『新編遠野市史 資料編 考古』の口絵用写真撮影準備の一環として、土器の石膏せつこうに色を塗る作業を行いました。

土器は多くの場合バラバラの状態が発掘されます。その破片を組み立て元の形を復元していきますが、破片が足りない部分には、石膏を入れて補います。石膏に色が塗られたものもあれば、時間や予算の都合で塗られていない土器もあります。また、最近は最初から着色された素材を使ったり、本物の部分と区別するためあえて塗らないほうがよいという考え方もあるそうです。

今回は、土器の集合写真を撮る際に石膏の白色によって白飛びしてしまう可能性があるため、埋蔵文化財担当者の協力を得て編さん室職員が着色を行いました。まず土器に色が付着しないようマスキングテープで着色部分を区切り、土器の色に近い色を塗ります。乾いたらマスキングテープをはがし、細かい部



▲石膏部分が多い土器は、時間がかかる上に色むらが出やすいので要注意。

着色作業中。
平筆を使い、空気を含まないよう重ね塗りをする。細かい所を塗ったり、マスキングテープを貼るには竹串が便利。



分を補正して完了です。色の調整や、細かい部分にテープを貼る作業が難しく苦心しました。出来栄は資料編でお確かめください。

兼平 賢治

かねひら けんじ

遠野市史編さん委員会 委員
遠野市史編さん近世部会 部会長

Q1 出身地

久慈市生まれ、盛岡市育ち。

Q2 所属

東海大学文学部歴史学科日本史専攻
准教授

Q3 専門分野

江戸時代の武家社会と盛岡藩政史。
東北の馬や鷹も研究しています。

Q4 市史に関して今もっとも興味を持っていること

沿岸と内陸の結節点であった遠野の姿を古文書から解明！

Q5 その他興味があること

石碑や古墓の石材に興味津々です。

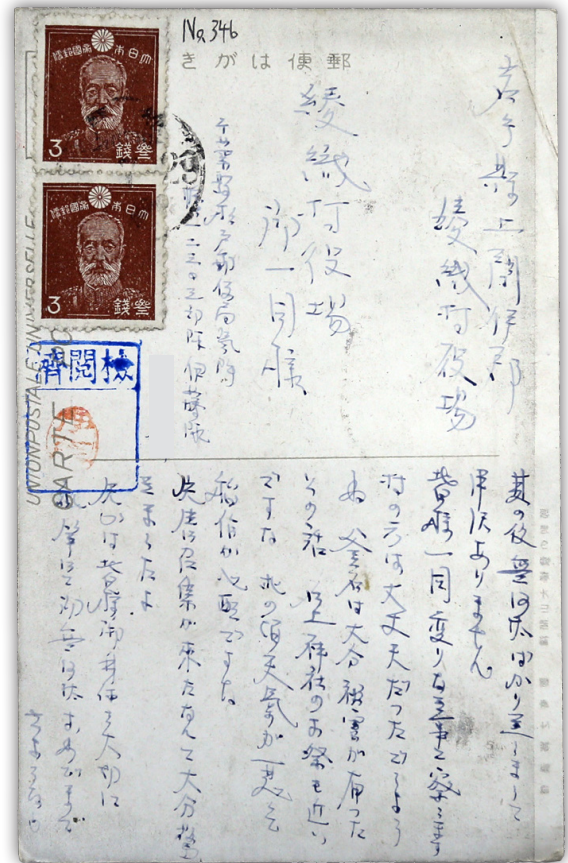
編さん委員紹介

軍事郵便 ぐんじゆうびん

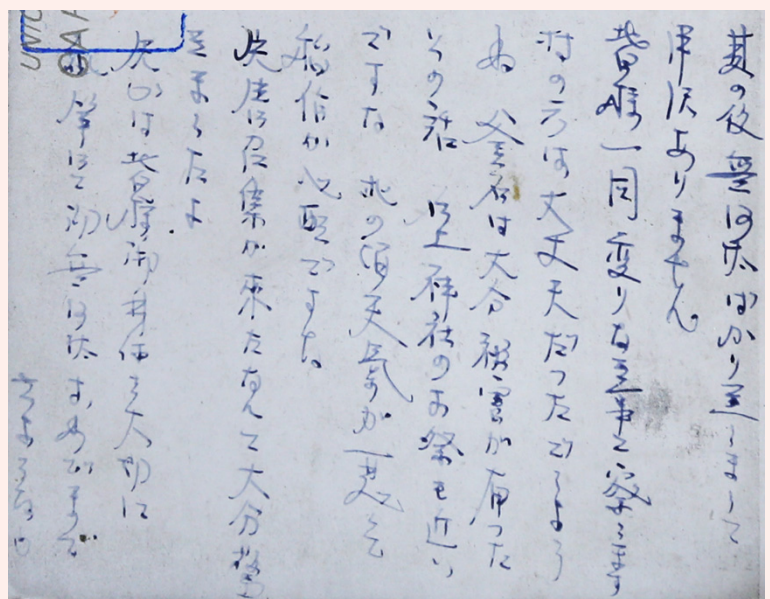
資料紹介

この資料は、太平洋戦争末期、綾織村出身の軍人によって出征先から綾織村長あてに出されたはがきです。このような戦地またはそれに準ずる地の軍人・軍属から出された郵便物と、それらの人に宛てた郵便物を軍事郵便といい、日本では日清戦争を契機に誕生し、昭和21年(1946)2月に廃止されました。軍人・軍属が出す郵便物は無料で、書状、はがき、小包(公用のみ)を送ることができましたが、逆に戦地への手紙などは有料でした。軍事郵便の正確な発信数は把握されていませんが、昭和12年(1937)から同16年までの推計によれば、平均して1年に約4億通の軍事郵便が取り扱われていたようです。軍事郵便に対しては検閲が行われていたため、戦地の様子などを記すことは制限され、このはがきにも検閲済みの印が押されています。しかし、軍人とその家族らが連絡を取り合う唯一の通信手段であり、戦時中の様子を知ることができる貴重な資料です。

昭和20年7月29日の消印があるこのはが



きは、綾織町の国指定重要文化財旧千葉家住宅に伝わる文書のひとつです。同年7月14日の釜石艦砲射撃に触れ、村の様子を心配する言葉が並んでいます。なお、同一人物が書いたとみられる同年5月のはがきには、出征後残された弟妹を心配する心情と、村の人々への感謝が綴られていました。



◀通信欄(拡大)と翻刻文

其の後無沙汰ばかり至しまして
 申訳ありません
 皆様一同変りなき事と察します
 村の方は大丈夫だったでしょう
 ね 釜石は十分被害が有った
 との話 石上神社のお祭も近い
 ですな 此の頃天気が悪くて
 稲作が心配ですな
 先生に召集が来たなんて大分驚
 きましたよ
 先づは皆様御身体を大切に
 乱筆にて御無沙汰おわびまで
 さようなら